

談話室

「激変の時代」の中で思うこと

Thinking in the Uphraval Times

岩崎 信 顯*

Nobuaki Iwasaki

とうとう今年日本では6人に1人が65歳以上に成った。町中ですれ違う人に年輩者が多く成ったように思う。社会が単純に年功序列賃金で有れば豊かになった人が増えた事に成るはずだが、どうもそのようには見えない。個人のレベルの生活経済帯には大きな破砕地帯がありそうである。日本経済を代表しているであろう会社経済の最近の株式や円の相場の動きを見ていると日本の金融市場の2割位は外国のヘッジファンドに曝されていると言われるように、日本の経済界の望まぬ方向に動かされることが多い。

外国という、日本に居る外国人は150万人を越えているという。この内半分位は東京近郊に居ると思われるから、東京23区とその近郊を合わせた1600万人位の日本人の中にいると考えれば約20人に1人は外国人ということになる。確かに最近の山の手線に乗っていると、突然後ろの方から日本語でない言葉で大きめの会話が聞こえて来たりするので、そんなものかと妙に納得したりもする。

このことは日本が世界の中で活動している事の照査かもしれない。そうなると、世界の良いモノも悪いモノも同時に入って来るという事になるから地元日本の者はその良し悪しを見分けて対処しなくてはならない事になる。これは個人的に止まる事なく、対処する制度的な面に及ぶ事にもなる。さて、日本に有利な形に準備は出来ているであろうか。

何事も変化に気付くには“違いに気付く事”から始まる。そして変化をコントロールするには変化を定量化して把握していく必要がある。我々が自然現象を扱う科学/技術の分野では各種単位を指標として変化の定量化を行っている。経済/社会の分野にも指標が有る。いつの時代でもそうではあるが、特に変化の多い時代には的確な指標を見出すのが大切である。変化を見付けるには指標を持つこと。そして変化の巾を計る

目標を設定する事が大事になる。激変の時代には今まで効果の有った指標が効果を見せなくなることがある。そのような状況を早く見付けて、次の新しい有効な指標を見付け直していけないといけなない。

しかし、変化が続いていくと変化に麻痺してしまい、違いに鈍くなっていくのが人間の常である。このような時でも変化をきちんと把握して対処して行くには指標を日頃から準備し、その使い方を磨いておかなければいけない。

激変の時代には特にこの変化に対する方向性と対応程度を、適切に早く決めて行動していくことが必要になる。

さて、今や「変革の時代」～21世紀ルネッサンス(混沌からの再生)を迎えようとしている。

「これからの日本に必要な視点とは」どのようなものだろうか。日本の現状は次の通り。

- ・食料～穀物自給率 約3割。
- ・一次エネルギー～自給率 約2割。
- ・資源～埋蔵量世界順位で10位以内のものは非常に少ない。
- ・環境～海に囲まれ、山と川の数が多い。草木は豊か。雨風は生活に必要な量を得られる。
- ・SOx, NOxは一応環境指定値にコントロールできるようになったが、ダイオキシン量やCO₂量や緑化率や水質等の長期生活許容レベルを確保できているだろうか。
- ・精神/理念～世界の多くの人々と意見交換をし、共存していける理念を持っているだろうか。
- ・教育～次の時代へと人々が存続していく智技の伝承をどのように行うとよいか。

歴史の整理、技術観、人間性像、人生観、社会観、人類観、宇宙観から用意していけないといけなないのか。いずれにしろ「世界と共に生きる日本」という姿勢は必要なようだ。

ふと思う。イギリス・ロンドンのある建物の軒の部分に刻まれた言葉「イギリスは偉大なり。世界の総て

*三菱重工業(株)原動機事業本部タービン技術部タービンサービス技術課主務

〒220-8401 横浜市西区みなとみらい3-3-1

の大陸を征服した。南北アメリカ、オーストラリア、アフリカ、インド、アジア、ヨーロッパ、ユーラシアそして教育。」が有った。これは「人間の思考や思想を存分に活かして暮らしていける」という自信からくるものか。

「民族の特色を残しつつも新しい文明を取り込んで次の時代へ駆け抜けて行くこと。」これが出来ない民族は先進民族に飲み込まれていってしまう。今の日本でこれが出来ているであろうか。教育の最高レベルとしての大学は学生を人間として鍛え、社会人へと育てる所ともいう。カレッジとは、「励む所、励まされる所、励ます所」。自分で学ぶには励まなければ出来ない。新しい事には特別に。

・人は何の為に働くか。何の為に生きていくか。

また思う。エネルギーの膨張、爆発利用。人間が使ってきたものは大気と水と熱。

熱を得た順は、木→石炭→火薬→石油→原子力（核分裂）→ガス（メタン、CO）→水素から。次は核素子（核分離、核融合）→DNA→物質改変、光合成体・

生命体創造？

資源とは人間が有用と考える自然物。

エネルギーとは人間が利用しようとするモノを動かそうとする能力。

環境とは人間等の生命体の生存する場所・空間。

全て「人間にとって～」となっている。やはり「人間が一番」のようだ。

そうすると文明の発展／膨張→ズレ／摩擦の拡大→（解消、飲み込む、爆発）→次の膨張へと続く。そうなると人間の努力はズレの解消のためか。

世界の中で、世界と共に、世界のリーダー達の一員として日本がすぐ貢献できる分野は、技術、工業製品製造、経済（資金）の分野か。

戦後日本は「暮らしは楽か、生活は楽しいか、技術は優れているか、経済は豊か、住み良い社会か」と国内国外に対する意識の熟成をあまりしないで、これらを目指して頑張ってきたはずだ。これからも「今より良くなるように何事に対しても努力して行くことが肝要」などと改めて思ったら目が覚めた。

協賛行事ごあんない

「第26回炭素材料学会年会」について

主催 炭素材料学会

問合せ 〒113-0033東京都文京区本郷4-1-4

会期 1999年12月1日(水)～3日(金)

コスモス本郷ビル8F

会場 ビックハット・若里市民文化ホール

炭素材料学会 事務局

(長野市)

TEL03-3815-8514 FAX03-3815-8529

参加費：協賛会員8,000円、非会員12,000円